

令和 6 年度 県立東海高等学校自己評価表

目指す 学校像	・生徒、教職員、家庭、地域が連携し、地域社会から愛される学校 ・一人一人の自主性、2つの自りつ(自立・自律)性を育むとともに、明るく誠実で、知性豊かな、心身ともに健康な生徒を育成する学校			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリ シー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域を支える核となって活躍する、社会に貢献できる人財の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の幅広いニーズに対応した教育課程による、就職から進学までの進路希望実現		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	自己実現・進路目標実現を目指し、日々努力する生徒の受け入れ		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
【昨年度の成果】 ・大学進学率アッププロジェクトのクラスに加え、スタディアプリも導入。学習の動機付けと基礎学力の向上につなげている。スタディアプリ到達度テスト9月・12月比較で国・数・英の正解率分布の55%層が65%層以上に上昇する傾向がみられた。 ・1年論表3単位、数IA5単位で2クラス3展開の少人数授業(数学は習熟度別)を実施。発言・表現機会の増加は主体的な学びと基礎学力の向上につながっている。少人数担当授業満足度 英3.4、数3.5(全体平均3.3) ・自立心や職業観育成のため体験活動を推奨。インターンシップ5名、幼稚園実習38名、看護体験1名、理学療法士体験2名が参加。 ・2学年全員で村の魅力を発信する動画を東海村役場との協働で作成。「いばたん」に応募し、2作品入賞(自治体特別賞・特別賞)。探究活動を通し主体性と達成感を得ることができた。 ・合同あいさつ運動は天候不良のため年1回のみであったが、部活動生徒を中心に校内であいさつ運動を月1回で行った。延べ名参加。 ・地元ボランティアに積極的に参加。JRC部地域ボランティア参加1回、ジャズバンド部地域イベント演奏6回、PC部地域貢献活動5回 ・留学生(聴講生)を2名受入れ。 【課題】 ・基礎基本から応用までの学習指導。学校全体で学習意欲の向上と国公立大学合格者の輩出。 ・キャリアパスポートの効果的な運用研究の継続 ・探究活動の充実。東海村との協働(フレンドシップ協定の利用)。		観点別学習状況の評価を生かし、基礎基本から応用までの学習指導を行い、ICT等を活用しながら授業改善を行い個々の学力向上に努める。	①年間指導計画表を活用して、組織的・計画的な学習指導を推進する。 ②ICT等の活用を含めて指導方法の工夫・改善に努め、基礎的・基本的な知識の定着の上に応用力の育成を図り、授業評価アンケートを活用し、生徒による授業評価全項目平均3.4以上を目指す。 ③個々の学習課題を提示することにより、学習目標を明確にさせ、生徒の意欲を喚起する学習指導を行い、学力の向上を図る。	A
		多様な個々の進路希望にむけ、指導体制を確立し指導の充実を図る。	④生徒の進路情報収集に関する不安解消に努め、進路実現のために必要な情報提供を目指す。 ⑤就業体験(インターンシップ)や幼稚園体験実習、1日看護体験等をとおして、自立心や職業観を育成し、キャリア教育の充実を図る。 ⑥進学、就職のための学習指導の充実を目指す。	A
		基本的生活習慣の確立を図り、社会に通用する自主的・2つの自りつ(自立・自律)的な態度の育成に努める。	⑦家庭・地域との連携を密にし、相互の信頼・協力を基に、生徒の健全な育成に努める。 ⑧服装、頭髮、公衆道德等の指導を通して、規律ある明るい学校生活を確立するとともに、全職員が共通理解のもと一貫した生活指導を行う。 ⑨日々の教育活動の中で自主的・2つの自りつ(自立・自律)的な態度の育成を図る。 ⑩情報モラル・公共マナーの指導等をとおして、健全な心と社会性を育成する。	A
		生徒会活動・部活動を奨励し、スポーツ・文化・芸術を親しむ態度と達成感や連帯感の育成に努める。	⑪自主的・主体的な生徒会活動・部活動の活性化をとおして、集団の一員としての自覚を促し、他と協調できる豊かな人間性を育成する。 ⑫部活動の3年間継続を目標とさせ、技術・体力の向上を図り、心身ともに健全な生徒の育成に努める。 ⑬ボランティア、体験活動、地域の行事への積極的な参加を促し、奉仕の精神、自立への精神を育成する。 ⑭キャリアパスポートを活用し、学校行事、部活動などでの様々な体験や学びを通して、人間関係形成、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力の伸長を図る。	A
		地域と連携し、信頼される魅力ある学校づくりに努める。	⑮地域の行事等積極的に参加するなど、地域との連携を深める。(東海村とのフレンドシップ協定の活用) ⑯積極的な広報活動(新聞、村広報等、各種メディアへの情報提供)により学校の活動状況を発信する。	A
		働き方改革を進め、教育活動の精選と充実を図る。	⑰校務の適正な分担を図り、各自週1日以上 の定時退勤日を設ける。 ⑱ICT等の活用により教材の共有化・業務の効率化を図り、教員と生徒が向き合う時間を確保する。	A

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	基礎的・基本的な学力の向上と応用力の育成強化 (授業改善プロジェクトの推進)		授業内容及び家庭学習の定着を図るため、ICT活用、指導法の研究に努める。	②③	A	基礎基本から応用までの対話的で主体的な学びのため、引き続き少人数授業を継続する。様々な取組みから授業改善を進めることができたが、上位大学への進学は厳しい結果となった。学校全体で挑戦を継続していきたい。
			年間指導計画と観点別評価を活用した計画的な学習指導を推進し、授業改善を図る。	①	A	
			公開授業・相互授業観察等を行い、授業改善を図る。	①③	A	
			少人数授業(数学・英語・国語)の展開や課外等の実施により基礎基本の定着と応用力の育成を図る。	②③	A	
	生徒一人一人の学習意欲の喚起と自主的・自律的な学習態度の育成		各種資格、検定試験等を積極的に推奨し、学習意欲の高揚を図る。	③	A	
			平常課外や長期休業中の課外をとおり、応用力の育成と進路実現を支援する。	③	B	
			苦手意識を持つ生徒に対して基礎基本からの学習指導(課外等)を実施する。	②③	A	
教科	国語	基礎学力の向上	漢字テキストを活用し、漢字能力を高めるとともに語彙力の向上を図る。定期的に小テストを行い(週に1回程度)、学力を定着させる。	②	A	言語活動の充実と表現力の育成が課題である。あわせて生徒の主体的な活動を促す工夫をしていきたい。
			教科書準拠ノートやワークシート等を課題とし、家庭学習の習慣をつける。	②③	A	
		自己表現力の育成	進路実現に向けて文章力や語彙力を身に付けさせ、表現力の育成を図る。	②⑥	A	
			言語活動をとおり自分の考えを筋道立てて文章にまとめたり、発表したりする能力を身に付けさせる。	④⑥	A	
		わかりやすい授業の工夫	テストや課題を適切に評価し、指導の改善に努める。	①③	A	
			ICT等の活用や授業形態の工夫に努め、生徒の意欲・関心を高める。	①③	B	
	地歴公民	基礎的・基本的学力の定着	生徒の実態に合わせて学習内容を精選する。	①③	A	学習意欲を高め、自ら学習に取り組む態度を身に付けさせる。生徒の興味、理解を高めるICT活用。
			定期考査等の結果をもとに生徒の学習到達度を把握し、授業改善に努めることで生徒の学力や学習意欲を高める。	②③	A	
		わかりやすい授業の展開	副教材やプリント、ICTなどを活用した授業を展開する。	②③	B	
			グループワークなどの言語活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成に努める。	②	B	
			単元目標を明確にし、十分な教材研究を行う。	①③	A	
	数学	基礎基本の定着と応用力の育成	少人数授業を実施し机間支援の機会を増やす。(毎授業、各生徒に1回の声かけ)	②③	B	少人数習熟度別授業は幅広い学力層の生徒の個別最適な学びの達成のため、継続していきたい。電子黒板の活用で視覚的に訴える授業を実現している。生徒のICT活用も進めているが、研修や積極的な情報交換を行っていきたい。
			年6回(定期考査毎)の課題を課す事で基礎基本の定着と、学習習慣の確立をねらう。	②	A	
			生徒同士の話し合いや確認の時間(毎授業2、3分程度)を設け、主体的な学びを通した基礎基本の定着と知識の深化を図る。	②③	A	
		わかりやすい授業の実践	机間支援を通し生徒のつまづきを発見し的確な課題設定を図る。	①②③	A	
			教員同士の打合せを密にし、指導と評価の一体化及び授業改善を図る。	①②③	B	
			教科内の授業見学(月1回目標)を通し、ICT等の活用、授業改善に努める。	①②③	B	
	理科	基礎学力の向上	定期的なノート点検や机間支援、ICT等の活用を通して、生徒の取り組み状況やつまづき状況を確認し、必要に応じて学び直しの学習指導を行うことで、基礎学力の向上及び授業改善を図る。	②	A	生徒の主体的な学習態度の育成という面で課題が残った。観点別学習状況の評価を生かした学習指導・授業改善に一層努力していく。
			生徒同士の話し合いやグループワークなどの言語活動を通して、知識の定着や原理・法則の理解を図る。また、タブレット端末等を活用した主体的な学習態度の育成を促し授業改善を図る。	③	B	
		科学的なものの見方や考え方の育成	日常生活に関連する観察や実験に取り組むことで、科学に対する興味・関心を引き出しながら、科学的な考え方を育成し、主体的に探究する態度と能力を身に付けさせる。	③	B	

別紙様式 2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題				
教科	保健体育	基礎体力の向上	運動の特性を生かした授業展開を工夫し、運動量の確保に努める。	①③	A	A	グループワークを多用しコミュニケーション能力向上させる。 I C T機器を充実させ、個々の生徒に対応した展開を行う。			
			競技及び運動の特性を理解し、自ら課題を見つけ、課題解決に向けて努力させる。	③	B					
		運動の楽しさを味わう授業展開	簡易ルールを作り、仲間と協力し、相談しながら主体的に活動できるようにする。	③⑨	A					
			I C T等の活用を含めて生徒の実態に応じた授業展開を工夫する。	②③	A					
		健康と安全についての理解	健康の保持増進のために生活習慣の見直しや改善を図ることができるようになる。	③⑩	A					
			自他の安全に留意しながら運動できるようにする。	⑧⑩	A					
	音楽	音楽の特質を理解し、表現する喜びの体験	生徒個々が能力を発揮し、主体的な活動ができるようにI C T等の活用を含めて適切な助言を与え、授業改善を図る。	②③	B	B	生徒の水準も踏まえつつ、生涯音楽を愛好できるよう、様々な音楽体験をさせたい。			
			具体的な目標を持たせ、自己を表現すること、創造的な鑑賞をすることの喜びを与える。	②③	A					
	美術	造形の基礎を理解し、表現する喜びの体験	生徒個々が能力を発揮し、主体的な活動ができるようにI C T等の活用を含めて適切な助言を与え、授業改善を図る。	②③	A	B	表現の場を教室だけで完結せずに、展示やプロジェクトに積極的に参加する。			
			具体的な目標を持たせ、達成感を味わう喜びを与える。	②③	B					
	英語	基礎学力の向上及び授業改善	小テストを実施して、基礎学力の定着・向上を図り、I C T等の活用によって授業改善を行う。	①②	B	B	基礎学力を定着させ、英語がわかる喜びを実感できる授業を実践する。 観点別評価を生かした学習指導・授業改善に一層努力する。			
			少人数による主体的・対話的で深い学びを行い、その成果と課題を明確にする。	②③	B					
			ワークブック等をこまめに点検して、学習内容の定着に努める。	②③	A					
		家庭学習習慣の定着	定期的にノート等を点検し、家庭学習の習慣を身につけさせる。	③	B					
			英語がわかる喜びを実感できる授業の実施	ReadingとListeningに力を入れ、英語を読み、聴いて理解する喜びを体験させる。	③			A		
			A L Tを効率よく活用し、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションに親しませる。	③	B					
		家庭	基礎知識・基礎実践力の定着	学びの振り返りや実技テストを実施することで、基本的な知識・技術の定着に努める。	③			A	B	ホームプロジェクトや実習課題が「やらされている課題」ではなく、自分のため、家族のためにやって良かったと思えるものにするための工夫・改善。
				ワークシートの点検、振り返りシートを活用することで、学習意欲の継続に努める。	③			B		
	わかりやすい授業の展開		生徒の実態を把握しI C T等の活用を含めて授業内容を精選、改善することに努める。	①②	B					
	情報	生徒の能力、思考に応じた授業構築、テーマの工夫とアクティブラーニングの推進	生徒理解に努め、授業の意義や取り組むべき理由の明確化とその伝達の工夫を図る。	②③	B	B	生徒個人個人が自分の進路をイメージした学習に取り組めるようにする。また日々進歩する情報通信技術に興味関心が高まる授業を心掛ける。			
			授業において生徒にとって身近な題材を準備することで、その題材から生徒が自ら課題を発見し、その解決法を思考・判断・表現することができるように努める。	②③	B					
			グループワークを通して、コミュニケーション力の育成と課題解決力の育成に努める。	②③	B					
		社会・キャリアを意識した情報モラル・マナーの向上と情報活用能力の育成	様々なメディアを活用し、具体的なイメージを持たせた授業展開を心掛け、社会の一員として必要な能力の定着・育成に努める。	②③⑩	A					
			外部検定や情報システムなどを活用し、基本的なコンピュータスキルの定着を図る。	②③	A					
			プログラミング教育などを通し、論理的に物事を組み立てられる思考力を養う。	②③	A					

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
教務	授業時間の確保	出張・年休における授業振替を励行し、各教科・学年との連携で授業時間の確保に努める。①	A	B	選択科目や非常勤職員の勤務日等の都合、授業日の振替等による授業時間の偏りの修正がなかなか厳しい。考查実施科目の少ない学年・類型は考查期間を短縮し、授業を行い、授業時数の確保に努めた。次年度以降もさらに改善を進めていきたい。授業改善プロジェクトにより相互授業参観をさらに推進したが、次年度以降も継続させたい。東海村役場との協働がさらに進み、村の広報誌への掲載が増加、良傾向にある。今後も各方面で協働し、本校の特色を出していきたい。情報セキュリティについて、職員への情報提供、啓発を継続し、事故の未然防止に努めていきたい。
		行事を調整し、授業時間の偏りを減らす。①	B		
	学習指導の充実	年間指導計画表と観点別学習状況の成績評価により、指導と評価の一体化、授業改善を図る。①③	B		
		課外の内容を精選し、基礎基本の定着と応用力の育成を図る。①②③	B		
		相互授業参観を実施し、指導法の工夫と授業改善を図る。②	A		
	特色ある教育課程の検討	カリキュラムマネジメントを継続し、多様な進路への対応を目指す。①③	A		
	欠席・遅刻・早退者の実態把握	遅刻カードの活用に加え、スプレッドシート等を活用して即時把握に努める。⑧	A		
		保護者との連絡を密にし、家庭との連携を図る。⑦	A		
	開かれた学校を目指す (地域への情報発信と広報活動)	学校案内作成・中学生対象学校説明会・中学校訪問等を通して、本校の特色や活動の積極的な情報発信に努める。⑯	A		
		学校公開等で地域との連携・交流を深める。⑮⑯	B		
	生徒の図書館利用の推進	学習活動を適切に援助するため、資料及び情報を収集し、その活用を図る。③	B		
		図書館の美化や蔵書の整理を行い、利用しやすい環境を整える。③	A		
		図書委員会活動の活性化と、コンピュータによる資料検索の利用を促す。③	B		
	I C T環境の整備拡充及びI C T活用の支援	ネットワーク及び周辺機器を管理し、快適な利用環境を整備する。②⑬	A		
校内外の講師による研修会を開催する。②⑬		A			
校務支援システムのスムーズな運営に努める。②⑬		A			
情報セキュリティの向上	トラブルの未然防止に努め、不測の事態の発生時には関係機関や職員と迅速に連携・対応する。⑬	B			
	各種通知・情報提供等を周知することで、「情報セキュリティ実施手順」の遵守とセキュリティ意識の向上を目指す。⑬	A			
特別活動	HR活動や学校行事等の集団生活をとおして、調和のとれた発達と個性の伸長	クラス毎にLHR計画を作成し、HR活動の円滑な実施を図る。⑪	B	A	行事の実施に向けてより早い段階から動き出し、各部署に早めの協力依頼をして、スムーズな運営を行う。また、ICTを積極的に活用するなどし、より教育効果が高い行事運営となるよう努める。
		HRや生徒会活動・クラスマッチ等の行事に積極的に参加できるようにする。⑪	A		
		文化的な行事としてすべての文化部が晴嵐祭に参加する。また、クラス毎の参加を奨励し内容の充実を図る。⑪	A		
		キャリアパスポートを活用し、キャリアプランニング能力を自ら成長させる。⑭	B		
	よりよい人としての在り方、生き方についての自覚の深長、心の豊かな人間性の育成	東海南中学校・中丸小学校との三校合同あいさつ運動に生徒会と各部活動が参加し、マナーアップ運動を推進する。また、ボランティア活動を奨励し、地域の活動に貢献する。⑬	A		
		部活動の年間継続を奨励する。⑫	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
生徒指導	明るく、安全な学校環境の確保	日常の生活指導の徹底。(内規の読み合わせ、時宜に応じた職員への啓発、毎時間の服装指導) ⑧	B	B	根気強く、指導支援の必要あり。 全職員が継続して関わっていただけるような仕組み作りが必要。 職員間の共通理解及び協力体制の構築が必要。
		全職員での校外指導の実施。(登校指導、下校指導) ⑦⑧	A		
		交通安全指導。(生徒指導部・生徒による自転車点検と交通安全指導) ⑦⑧	B		
		LHR・総合的な探究の時間を利用した指導。(喫煙防止、公共マナー、アルコールの害、交通安全、薬物乱用防止、情報安全教育、いじめ防止) ⑧⑩	B		
	生徒の規範意識の高揚	日常の生活指導の徹底。(内規の読み合わせ、時宜に応じた職員への啓発、毎時間の服装指導) ⑧	B		
		全職員での校外指導の実施。(登校指導、下校指導) ⑦⑧	A		
		交通安全指導(生徒指導部・生徒による自転車点検と交通安全登校指導等) ⑦⑧	C		
		LHR・総合的な探究の時間を利用した指導(喫煙防止、公共マナー、アルコールの害、交通安全、薬物乱用防止、情報安全教育、いじめ防止) ⑧⑩	B		
	保護者、地域社会、関係諸機関との協力関係の構築	地域社会、関係諸機関との協力 ⑦⑮	B		
		本校の生徒指導諸事業等の保護者へ周知と協力依頼(PTAによる登校・下校指導、列車添乗指導) ⑦	A		
	生徒指導に対する教職員の共通認識の構築	生徒指導業務、諸手続きの見直し ⑧	B		
		校長・教頭・教務主任・生徒指導部長・学年主任・特別支援教育コーディネーター連絡会の実施 ⑧	B		
進路指導	生徒が目標に向け、自ら主体的に考え行動できる力を育てる	進路相談室等の資料を整理し、生徒・教職員が利用しやすい環境を整備する。 ④	A	B	3年間を見通した指導と行事の実施。生徒が卒業後の生き方を模索しながら、目標や夢を見いだすことのできるきっかけやしかけの工夫。また、生徒が見いだした目標や夢に向けて努力する進路指導の体制づくり。(進学)入試方式の多様化に合わせた内規の整備(就職)3学年早期に職業選択を決定できる指導
		各学年の発意による進路関連事業を計画実施し、生徒の進路意識の向上を図る。 ①④	B		
		保護者向けの進路説明会等を実施し、家庭との連携を密にして、希望進路の実現に努める。 ④	B		
		「進路だより」を定期的に発行し、進路に関する情報を積極的に提供する。 ④⑥⑩	A		
	生徒の学力の向上と進路決定能力を育てる	インターンシップ等を活用して、正しい職業観の育成を図る。 ⑤	A		
		進学課外の充実を図り、模擬試験等を活用することにより綿密な進路指導を行い、進学希望の達成を目指す。 ⑥	B		
		就職課外・面接指導等を実施し、ミスマッチのない就職内定率の向上を図る。 ⑥	B		
保健厚生	健康への意識を高め、よりよい行動を選択できる力の育成	身体測定・各種検診の実施を通し、自分の健康に関心を持たせるようにする。 ⑦	A	A	コロナ・インフルエンザ・マイコプラズマ等の感染症予防について生徒の健康・安全への意識を高める働きかけを行う。 生活環境の整備と充実を図る。 LEBERを利用して、一人一台端末でのこころの健康観察を始めたが、問題を抱えている生徒の早期発見・問題解決に努める。また、引き続きカウンセリング等を通じて生徒の心のケアを図る。
		保健指導・講演会などを実施し、健康についてのよりよい情報を提供する。 ⑦	A		
	心身不調者の早期把握と効果的な対応	保健調査・健康相談を実施し、心身に不調を抱える生徒を早期に把握し対応する。 ⑦	A		
		スクールカウンセラー・関係職員と連携し、カウンセリングを通して生徒を支援する。 ⑦	A		
	学校生活に適した環境の整備	環境衛生検査・安全点検等を実施し結果をもとに環境の改善を図る。 ⑦	A		
		校内清掃を計画・実施し、必要な用具を整備する。 ⑦	A		
	防災意識の高揚と危機意識の育成	危険を未然に防ぐための注意を喚起し心構えを養う。 ⑦	A		
		地震・火災・原子力対応の避難訓練を実施し、非常時に適切な行動がとれるようにする。 ⑦	A		
	生徒の福利厚生の充実	奨学金の呼びかけと手続きを確実に行う。 ⑦	A		
		購買が滞りなく実施できるよう連絡・調整・管理を行う。 ⑦	A		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
渉外	P T A活動の活性化と充実	P T A総会の内容等を吟味して、より多くのP T A会員に参加していただけるよう努める。 ⑦	B	P T A関連行事の充実を図り、P T A会員の参加者を増やすよう努める。また、令和9年度実施予定の50周年事業の準備を本格的に始めていく。
		P T A役員への連絡を迅速に行い、役員会や各種委員会への参加者数をしっかりと把握し、スムーズな役員会や各種委員会の運営に努める。 ⑦	B	
		P T A関連行事の充実を図り、P T A会員の参加者を増やすよう努める。 ⑦	B	
		P T A活動に関して広報を充実させることによって、本校P T A活動の理解を深めてもらう。 ⑩	B	
第1学年	基本的生活習慣の確立	無断の欠席・遅刻・早退をしないように家庭との連絡を大切にする。 ⑦⑧	B	欠席・遅刻・早退を減らし、生徒が学習に積極的に取り組める環境整備を行っていききたい。生徒それぞれの能力に応じて、理解させる方策を工夫し、組織としての対応ができるようにしていきたい。連絡や情報共有などの手段として、I C Tの活用を強化したい。
		制服を正しく着用させ、頭髮などの身だしなみに清潔感を持たせる。 ⑦⑧	B	
		清掃を徹底させて校内美化に努め、規範意識の向上を促す。 ⑦⑨⑩	B	
		スマートフォンの使用マナーや言葉遣いなど、社会常識に則った生活を心がけさせる。 ⑦⑨⑩	A	
	基礎学力の習得と向上	正しい授業態度を身につけさせ、板書事項や教授事項をノートに書くことを徹底させる。 ②③⑧	A	
		家庭学習及び自主的な学習の習慣を身につけさせる。 ③⑦	B	
		各種検定試験受験や、課外学習への参加を促す。 ②③④	A	
		I C Tの活用(スタディーサプリ等)を通じて生徒の学習意欲が高まるよう促す。 ②③	A	
	「総合的な探究の時間」の授業の充実	探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会と関わる活動を通して、自己のあり方生き方を考えさせる。 ⑦⑨⑮	A	
		協働的な活動を通して、課題の発見と解決ができるよう資質・能力を育成する。 ④⑨	A	
第2学年	基本的生活習慣の確立・生活指導の徹底	基本的生活習慣の育成を図る。家庭との密な連絡を心がけ、皆勤等を奨励しながら、TP0を意識した態度や提出期限を厳守できる姿勢を育む。 ⑦⑨⑩	B	3学年にむけて進路に対する指導に、ここからより時間と労力をかけていきたい。それぞれの進路決定に向けて、学力向上を最優先にしながら、適切な身だしなみや言葉遣いも定着させていきたい。
		身だしなみ、言葉遣い、スマホ等マナーの指導を徹底し、規律を意識した生活を心がけさせる。 ⑧⑨⑩	C	
		教室、廊下等校内清掃を徹底させ、落ち着いた生活環境を整える。 ⑧⑩	B	
		L H Rや総合的な探究の時間をとおして思いやりや協調性を育み、健全なコミュニケーション能力を身につけさせる。 ⑪⑬	B	
	基礎学力の向上・自主的な学習態度の涵養	次時の授業準備を徹底させ、授業を受ける態度の充実を図り、基礎学力の向上に努める。 ②③⑥	C	
		進学課外や校外模試などの積極的な受講・受験を促すなど、目標をもった学習態度の涵養に努める。 ①②④	C	
		検定試験に挑戦することなどをとおして、自主的な学習習慣の育成と進路実現に向けての姿勢づくりに努める。 ⑤⑬	B	
	進路に関する指導の充実	進路講話やホームルーム活動をとおして、生徒一人ひとりの適性・能力に応じた進路指導の徹底を図る。学年での進路決定を意識づけさせる。 ④⑤⑥	B	
		部活動や生徒会活動、修学旅行やインターンシップの体験をとおして、自己理解を図りながら、自己の適性を発見し、進路意識の育成を図る。 ⑪⑫⑬	A	

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
第 3 学年	基本的生活習慣の確立と生活指導の徹底	言葉遣い、礼儀作法、身だしなみの指導を徹底し、教員間及び家庭と協力し実施する。 ⑦⑧	A	A	生活習慣を身に付けさせるために、入学時からの継続的な指導及び即時的な指導の徹底が必要であると考え、指導してきた。個々に応じた指導を行い、充実した進路支援ができた。しかし進学に向けての基礎・基本的な学力の定着に関してはまだまだ改善の余地がある。
		基本的生活習慣の完成を図り、自律的態度を身につけさせる。 ⑦⑧	A		
		授業や日常生活を通し、コミュニケーション能力や適応力を身につけさせる。 ⑥	A		
	生徒一人一人の進路実現への継続的な学習支援「いける」ところから「いきたい」ところへ	進路目標を明確にし、自主的な学習習慣と家庭学習の充実に努める。 ①④	A		
		個々に応じた進路相談を徹底し、進路に応じた課外や模試などを実施し、学力向上に努める。 ③	A		
		進路決定後も学習意欲を継続させ、最後まで学ぶ態度を育てる。 ②③	B		
	総合的な探究の時間の充実	進路別学習を実施し、必要な学力や面接の練習をとおし、希望進路の実現を図る。 ⑥	A		
		進学就職セミナーなどの講座をとおし、社会人としてのスキルアップを図る。 ⑬⑮	A		

※ 評価基準： A：大変よく達成できた B：よく達成できた C：普通である D：やや不十分 E：不十分